今、大学の授業がおもしろい

大学授業*今昔物語*

徳島大学では1年間に開講されている授業が、４４００科目以上あります。それらの授業科目は、複数の教員によって担当される場合もありますが、通常1人の教員によって担当されています。そのため、個々の教員の教育技術・能力がその授業の成否に大きく関係していることが理解できます。それぞれ教員は、自分自身の専門分野の研究活動を行うための訓練を非常に多く受けていますが、大学での教育実践や方法に関する訓練を受けていない者が多く、教育学部が存在し、教員養成が行われている大学であっても、高等学校までの初等・中等教育の現場で求められている教員養成が主に行われており、大学教員の養成を目指した訓練が体系的に行われている大学（院）が少ないのが現状です。文部科学省は、このような状況に鑑み、大学に対して、大学の授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施することを義務化し、各大学に教育改善を求めています。（大学設置基準改定、２００７）

この大学設置基準の改定が現在の日本の大学で行われているファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を先導しており、２００８年度からの学部のFD義務化によって、全国の大学でFD活動が盛んに行われるようになってきています。徳島大学における全学的・組織的なFD活動は、現在8年目を迎えていますが、それ以前から、学生に対して提供されている授業について学生による授業評価が、授業改善の基礎資料を得る目的で全学共通教育を中心に実施されてきました。現在では、すべての学部で学生による授業評価が実施されており、教育改善に向けて多くの試みがなされています。本特集では、本学の全学的なFD活動の概要を紹介し、各学部および全学共通教育課程で行われている教育改善の主な取り組みを取り上げて紹介します。

▼▼▼▼▼ 全学的なFD活動

本学では、学生による授業評価だけでなく、学生や教員に対して、教育に関わる全学的規模の調査も行われており、平成20年度に実施した学生に対するラーニングライフ調査や、平成21年度に実施した教員へのティーチングライフのアンケート結果から各種改善の手掛かりを得ています。また、学内の教育実践の改善を目指して、教職員に対して直接研修や演習の機会を提供し、合わせてそれぞれの教員間の情報共有を促進するために全学FDプログラムが行われています。

次に、２００９年度実施の全学的なFDプログラム活動を紹介します。

大学の授業改革

①FDファシリテーター養成研修（6月）

学内のFD担当者を対象とし、1泊2日の合宿研修を行っています。内容は、FDニーズの把握から企画の立案およびプログラム評価の方法までを、レクチャーとワークショップを通じて行うものです。

②教育力開発基礎プログラム（8月）

主に初任者教員を対象として、基礎的な教授法を身につけるための研修を実施しています。この研修では、シラバス作成や授業計画など教育に関する基礎知識の理解と、模擬授業の実施など実践的な教育力向上のための活動を、レクチャーやワークショップを通して行います。

③授業コンサルテーション・授業研究会（通年）

初任者教員や参加を希望する教員を対象として、授業の把握、改善、参加者間での授業技術の共有化のため、このプログラムを行っています。授業参観、授業研究会を行い、様々な部局からの参加者を交えて授業について討論します。本プログラムは、教員の実情に沿った具体的で日常的なFDを目指すものです。

④FDとくとくセミナー（8、9月）

大学教育の課題解決と授業実施のスキルアップを目指して、セミナーを実施しています。これまでの例として、「学生の声から始めた授業改善」、「授業の『見せ方』―視聴覚資料の効果的な活用法」、「歯学部におけるPBL～チュートリアル授業の概要」、「パワーポイントの使い方（入門編）」、「授業の評価をどう行えばいいのか?」、「聴衆応答システム（クリッカー）を使ってみよう」、「Significant Learning（意義ある学習）を目指す授業設計」、ワークショップ「学習意欲を高める工夫を考える」といった多彩なテーマのもと、レクチャーやワークショップを中心に行っています。

⑤FD・SDラウンドテーブル（通年）

全教職員・大学院生TAを対象とし、授業改善に関する情報共有、ディスカッションの機会を設けることを目的とし、ラウンドテーブルを行っています。大学内外からの講師による話題提供がなされ、徳島大学が直面している諸問題について、参加者が気軽に話し合える日常的なFD活動として実施しています。

⑥大学教育カンファレンスin徳島（3月）

教育実践に関する成果発表と情報共有のため、教育カンファレンスを毎年1月から3月の間の1日を使って開催しています。昨年度は1月に開催。各学部からの発表があり、発表数は、口頭発表19件、ポスタ18件の計27件でした。また、特別講演として、毎年学外から講師を招いています。

［香川 順子・大学開放実践センター］

▼▼▼▼▼学部、大学院、全学共通教育の授業改善

次に、学内の各部局で行われている特色ある授業や施設を中心に紹介します。それぞれの学習活動を繋ぐキーワードとして「参加」「体験」「交流」が挙げられます。

▼**総合科学部**は、本学で唯一の文系的な特徴を併せ持った学部です。少人数での体験を通して学ぶ「基礎ゼミナール」という科目を初年次から通年で開講し、総合的な思考を深める機会となっています。

総合科学の視点の基盤を育む「基礎ゼミナール」

これまでの専門分野だけでは、解決できないような現代の諸課題に対して、創造的な学問を創り出すことの必要性が認識されるようになってきました。総合科学部では、総合という学問の学びの原点を自ら探るために、少人数の「基礎ゼミナール」という科目を初年次から通年で開講しています。多彩な分野の教員が担当するために、そのテーマは多岐にわたっています。1年生の学生は、前後期合わせて40のテーマで開講されているゼミナールから、学生は前期と後期に各1講座を選択することが出来ます。このゼミナールにおいては、大学での勉強の基本となる資料の集め方を始め、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法などを学びます。また、グループ討論や野外のフィールドでの体験実習を行うゼミなど、その内容は多彩です。地域に出かけて、その地域の抱える課題をテーマとするゼミもあります。

このように体験を通して学ぶことは、総合的な思考を深めるために重要です。少人数教育の特色を生かして、学生は教員や学友と時間をかけて議論をする中で、現代社会の諸問題に対処するための総合的な考え方の基礎を身につけていきます。

［**大橋 眞**・総合科学部］

大学の授業改革

▼**医学部**からは、医師の基本的な技術向上のために利用されている模型実習を行う施設を紹介します。

臨床技能は、まずシミュレーター（模型）で習得！

医療人育成では、卒前教育・卒後研修でシミュレーション教育が進められています。以前は、患者さんに注射を何回も失敗して謝りながら上手くなったものですが、今はシミュレーターで十分習得してから、患者さんに注射するように変わってきています。そのためのシミュレーター実習を行なう専門施設として、全国で整備が進められているのが、通称スキルスラボ（Clinical Skills Lab.:CSL）と言われている施設です。

徳島大学も平成21年5月に日本有数の新スキルスラボ（263㎡）を開設しました。医・歯・薬3学部の中心に当たる医学部玄関のカフェテリア横の空間に、各学部が様々の器材を持ち寄り、ヘルスバイオサイエンス研究部（医・歯・薬・栄養・保健の大学院教員が合同した組織）の医療教育開発センターが管理運営しています。すべての医療系職種の臨床技能トレーニングとチーム医療の基盤となる職種間連携教育にも対応して、附属病院や学外を含めて効率的利用ができるCSLとなっています。

本学CSLは、4つのユニットで構成され、隣接する医学部会議室に模擬病室もあり、可動式壁を開くと広い研修空間となります。

1）CSL1：心音と呼吸音の聴診シミュレーターなどがあります。

2）CSL2：手術用と病棟での手洗い装置を設置して種々の実習に対応。

3）CSL3：模擬患者（SP）の待機室

4）CSL4：6つの模擬診察室があり、医療面接や身体診察、服薬指導の実習などが可能。マジックミラーやビデオが利用可能。

6月～1月で、専門医から高校生まで168件5339名もの利用がありました。

［**寺嶋吉保、赤池雅史**・医療教育開発センター］

写真：シミュレーターを使った注射の実習

写真：聴診シミュレーターによる実習

特集 今、大学の授業がおもしろい

大学の授業改革

▼**歯学部**では、地域の高齢者とパートナーになり交流することで地域に根ざした口腔保健・高齢者福祉を体験的に学ぶプログラムが行われています。

口腔保健・高齢者福祉体験学習を導入した歯学教育の構築

徳島大学歯学部では文部科学省の教育GPの支援を受け、「高齢社会を担う地域育成型歯学教育」と題した教育プログラムを実施しています。この授業は主に二つのパートから成っており、その一つは入学後間もない1年次後期に養護老人ホームにおいて対応が困難ではない高齢者をパートナーとして1対1の交流を行うもので、利用者の生活スタイルを崩さない範囲内でパートナーと一緒に時間を過ごす学外体験学習であり、学生に役立ち感や慈しみの心など医療人としての自覚を持たせることを目的としています。（写真1）もう一つは2年次学生（歯学科：早期体験実習、口腔保健学科：早期臨床実習）が教員とともに様々な高齢者福祉施設に赴き、健口体操（写真2）や口腔機能向上のためのレクリエーション（写真3）などの口腔機能の向上支援プログラムを実施するもので、地域高齢者と交流することで地域に根ざす口腔保健・高齢者福祉の重要性を体得することを目的としています。入学直後から段階的にこのような体験学習を行うことで、ヒューマンコミュニケーション能力ならびに他を思いやる慈しみのこころを涵養することができ、最終的には健康長寿社会に貢献できる歯科医療・保健福祉の担い手を育成することをめざしています。

［**伊賀 弘起**・歯学部］

写真1

写真2

写真3

次に▼**薬学部**の試みを紹介します。学生が学内外の講演・研修会や様々な体験研修に自主的に参加することが単位認定に繋がるポイント制を導入したというものです。

能動学習制度を通じた参加型学習への取り組み

薬学部における授業改革の試み：

徳島大学薬学部では、学生が生涯を通じて学習する習慣を身につけることを目的に、平成19年度より能動学習制度として学生自主参加型医療薬学科目を導入しました。この制度は薬学部臨床薬学講座が認定したメニューのうち、学生自身がメニューを選択し自主的に参加するもので、対象メニューは「集合研修」として学内外の講演・研修会、「自己研修」としてビデオ学習、調剤体験、ボランティア活動等の体験研修があります。

各メニューには単位認定に繋がるポイント制が導入されており、20ポイントにて演習1単位とするものです（下図1参照）。

本取り組みでは、「IC機能付き能動学習手帳」（下図2参照）を採用することで、研修登録や出席管理の簡便化を図っています。

平成22年2月現在20ポイント以上獲得（参加）した学生が既に14名、また10ポイント以上の学生も80名に達しています。

また学生に対するアンケート調査でも能動学習に参加して得られたものがあると感じている学生はいずれの学年も8割を超えており、能動学習の取組は学生の積極的、意欲的参加へ繋がる生涯学習習慣の動機づけになったと考えています。

［**土屋 浩一郎**・薬学部］

図1

図2

大学の授業改革

次に、▼**工学部**で模索されている『授業をエンターテインメント化する』という新しい授業の形を紹介します。

授業はエンターテインメントだ！

知能情報工学科にはソフトウェア実験という授業があります。前期はサッカー選手の動きをプログラムして、最後にサッカー大会を実施します。後期はコンピュータゲームを開発します。この授業で、学生は初めて本格的にソフトウェアを開発することになり、ものづくりの楽しさ、厳しさ、やりがいを実感します。

大学の授業と言えば、先生がびっしりと板書しながら一方的に話している、という印象が強いかと思います。このような伝統的な授業はもちろん健在ですが、新しい授業の形も模索されています。

ソフトウェア実験では、『授業をエンターテインメント化する』という試みをしています。前期のサッカー大会は学生にとって晴れの舞台、いわば、プチワールドカップです。精魂込めてプログラムしたプレイヤーの動きに一喜一憂します。今年度は大会を更に盛り上げようと、様々な演出を取り入れました。教員が審判服に身を包み、サッカーアンセムをBGMに会場に現れたり、試合を実況したり…また、試合結果を前方スクリーンに速報表示したり、学生に勝者予想させたり…学生の反応は良好で、大会は大いに盛り上がりました。

授業内容を理解させるのは勿論のこと、『ワクワクする授業』を目指して工夫を続けていきたいと思います。

［**光原 弘幸**・工学部］

写真：ソフトウェア実験でのサッカー大会の様子

大学の授業改革

最後に、初年次教育を主に担当する▼**全学共通教育**で行われているもので、多様な個性の尊重と人間力育成のため地域社会人が授業に参加し、学生・教員とともに学びあう場を提供する共創型学習科目を紹介します。

地域社会人とつくる学びのコミュニティーを通した教養教育

全学共通教育では、多様な個性の尊重と人間力育成のための初年次教育のひとつとして、平成17年よりグループ学習・体験学習をとりいれた授業を導入しました。

地域社会人が授業に参加し学生・教員とともに学びあう場としての「学びのコミュニティー」を構成したところ、三者がそれぞれ活性化されること、人間力や社会性の形成、さらには進取の気風の涵養に有用であることなどが明らかになってきました。さらに様々なFDの機会「授業企画会（H19年12月）」、「教養教育FDフォーラム（H20年7月）」、「英語教育FDフォーラム（H20年10月）」に社会人が参加し、学生・教員と議論する場を設けたところ、学びのコミュニティーは課外活動においても機能することが理解され、「FDキャンプ（H20年11月）」、「FDフェスタ（H20年11月）」にてその効果が確認されました。

平成20年度の質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）に、この取り組み「地域社会人ボランティアを活用した教養教育」が採択され、平成21年度の全学共通教育では18授業がグループ討論形式、ディベート形式、社会人がコメンテーターとして参加などの形式で実施され、また月に数回、課外活動として学びのコミュニティーが開かれています。

［**齋藤 隆仁**・総合科学部］

大学の授業改革

社会人の方が受講できるものとして、『名著講読』『パンセと教養』『世界の見方―文学作品や科学随筆を読む』『生きがいを考える』『未知との出会い―文学作品や随筆を読む』『自分探しと現代社会』『生き抜く力とは何か？』『身近にある「ゆったりもの」―方言をつかまえよう―』『地域のボランティアリーダーたちと語ろう!!』『「つたえること」と「ものづくり」―科学と遊ぼう―』『学生と社会人による授業企画ゼミ―大学で何を学ぶのか？―』『空海と歩く―歩き遍路の世界―』などの科目が2009年度に実施されています。

▼▼▼▼▼

以上、紹介したように大学の授業が最近大きく変化してきています。他にも、学部生に対して開講されている通常の授業を一般市民の方が受講できる「公開授業」が毎年多く開講されています。生涯学習社会と呼ばれる現在、大学生だけでなく、すべての人々が「学びの楽しさ」体験する機会が豊富に存在しているわけです。ぜひ、多くの人々にその機会を活用し、ラーニングライフを心からエンジョイしていただきたいと思います。

◎「共創型学習科目」や「公開授業」の詳しい内容や受講申し込みについては、大学開放実践センター生涯学習係電話：088・656・7276に問い合わせることができます。

私は・・・

高知県土佐塾高校出身の岩﨑丈紘と申します。現在は徳島大学医学部医学科4年生に所属しています。

医学科では3年生までに解剖学といった基礎医学を学び、4年生から臨床医学を学び、5・6年生で実際に大学病院内において臨床参加型実習を行います。自分は4年生なので「循環器」「消化器」「産婦・小児」といった臨床医学を、主に講義で学習しています。部活動として、現在「地域医療研究会」に所属し、部長を務めています。地域医療研究会では、主に地域で活躍されている病院で見学・実習を行っており、大学近辺の病院だけでなく兵庫・香川・高知といった県外の病院でも実習を行うことがあります。現場で働く様々な職種の方々や患者さんのお話を聞くので、色々な角度から医療現場を見ることが出来て大変勉強になります。

なぜ徳島大学に・・・？

将来高知・徳島両県で働くことを考えているのですが、徳島大学の関連病院が両県に多いことが動機の一つです。徳島県に住んでみての感想ですが、関西文化の影響が強く、とても便利だと思います。

まずは無知を知ることから

My Campas Life（マイ キャンパス ライフ）

医学部医学科4年
岩﨑 丈紘 いわさき たけひろ

高知県との文化や生活環境の違いが比較出来て面白いです。

大学のイメージは入学前と今とでは差があった・・・？

1人暮らしでの大学生活は大変そうなイメージでした。実際、全て自分で管理することは大変ですが、食事時間や門限等を気にしなくてよく、とても自由で充実しています。

高校までには無い大学ならではの経験としては、様々な境遇の人と話や議論が出来ることです。例えば私が所属する医学科4年生には徳島県出身者も含め、東は新潟から西は福岡までいます。年齢層も22歳から、一度他大学を卒業した30代の人もいます。

卒後の進路は・・・？

特定の専門性を高めた専門医に興味がありますが、どの疾患にも適切に処置が出来る、総合診療医にもあこがれます。内科医になりたいと考えていますが、具体的なことは臨床参加型実習で各科を回ってから、じっくり考えるつもりです。

最後に一言・・・

「まずは無知を知ることから」です。難問・困難に取り組むとき、まずはそれについての自分の無知な部分を、具体的に知る必要があると思います。それが分かると、具体的に自分には何が出来るのか、少なくとも方向性が見えてきます。

医学でも、勉強すればするほど具体的に何を知らないかはっきりしてきます。患者さんとお話をしていても、そこから分っていたつもりで全然知らなかった患者さんの事情や気持ちに気付くことが多々あります。これからも様々な困難に遭遇すると思いますが、まずは自分の知らないことをはっきりさせた上で、自分に出来ることを探りつつ、日々邁進していきたいと思います。

My life situation

住居：下宿
（蔵本キャンパスから自転車で約10分）
通学手段：自転車
生活費（現時点）：
収入：仕送り ¥120,000
支出：家賃（駐車場代込）¥60,000
食費＋公共料金 ¥60,000